

日本陸連アスレティック・アワード2013 受賞者一覧

1. アスリート・オブ・ザ・イヤー 「2013年においてその活躍が最も顕著であった競技者」

福士 加代子(ワコール)

第14回世界陸上競技選手権大会(モスクワ) 女子マラソン 銅メダル

この種目では、2009年の第12回世界陸上競技選手権大会(ベルリン)以来となるメダルを獲得した。

2. 優秀選手賞 「2013年において優秀な成績をおさめた競技者」

①木崎 良子(ダイハツ)

第14回世界陸上競技選手権大会(モスクワ) 女子マラソン 4位

堅実な走りでレース後半、順位を上げ入賞した。

②新谷 仁美(ユニバーサルエンターテインメント)

第14回世界陸上競技選手権大会(モスクワ) 女子10000m 5位

積極的なレース展開で3500～9500mまで先頭に立ち、自らレースを作り自己記録で入賞した。

③山本 聖途(中京大学)

第14回世界陸上競技選手権大会(モスクワ) 男子棒高跳 6位

5m65と5m75を、それぞれ3回目にクリアし勝負強さをみせた。

世界選手権の男子棒高跳で日本人の最高順位、及び自己タイ記録で入賞した。

3. 新人賞(記者クラブ2名、本連盟1名) 「2013年の活躍が顕著であり、その将来が期待される競技者」

①東京運動記者クラブ選出 2名

(男子)

桐生 祥秀(洛南高校)／1995年12月15日生

4月の織田記念陸上競技大会で、日本記録にあと100分の1秒に迫る10秒01をマーク。日本選手初の9秒台誕生の期待を高め、陸上ファン以外の人々にも競技に対する関心を高めた。また、全国高校総体では3冠を達成。世界選手権にも出場し、400mリレーでは6位入賞とメンバーの1人として活躍した。

(女子)

杉浦 はる香(浜松市立高校)／1995年6月8日生

日本選手権400mでは、初日の予選で高校記録を21年ぶりに更新し、2日目の決勝では日本歴代2位の52秒52をマークして優勝。一躍、ヒロイン誕生を印象付けた。全国高校総体は2位だったが、国体では53秒09の大会新で優勝を飾るなど、年間通しての活躍が光った。

②本連盟選出 1名

西塔 拓己(東洋大学)／1993年3月23日生

第14回世界陸上競技選手権大会(モスクワ) 男子20km競歩 6位

昨年の第30回オリンピック競技大会(ロンドン)に続き日本代表に選出された今年の第14回世界陸上競技選手権大会(モスクワ)で、序盤から積極的なレースを展開し、競歩ではオリンピックと世界選手権を通じて日本人の最高順位に並ぶ6位入賞を果たした。

また、U-23の該当年齢で、競歩種目初の世界選手権入賞を果たした。

4. 特別賞 「陸上競技を通じた活動や活躍が広く社会に対して貢献したと認められた者もしくは団体」

桐生 祥秀

4月の織田記念陸上競技大会において、10秒01の日本歴代2位、第14回世界陸上競技選手権大会

(モスクワ)男子4×100mリレーの第一走者として6位入賞に貢献するなど、高校生離れした走りが話題を集め、陸上競技に対する社会的関心を高めた。